

財表論文の合格のコツ（過去問の重要性）その1

【14年論文式本試験・第3問・問2の（1）】

(1) ファイナンス・リース取引に係るリース資産およびリース債務の当初認識時の測定については、①リース料総額の割引現在価値を重視する考え方と、②貸手の購入価額または借手の見積現金購入価額を重視する考え方がある。それぞれの考え方について説明しなさい。（8行）

《問われている概念》

- ・明らかに「2取引」という概念をきいています。

《出題意図》

■ 1取引と見る見解

- ・ファイナンス・リース取引のアプローチには、改訂前の基準のように「1取引」とみる見解があります。この場合、仕訳をしますと、次のようになります。

(借)	リース資産	××	(貸)	リース債務	××
					↓
(借)	固定資産	××	(貸)	割賦未払金	××

- ・つまり、固定資産を購入し、その代金を割賦で後日支払うと考えるのです。
- ・この場合、貸方のリース債務の性質は固定資産を購入したことに伴い発生した未払金であり、**固定資産の購入と代金の支払いを連続した一つの取引とみるという「1取引」の発想**です。
- ・この結果、借方と貸方は、いずれも事業取引から生じたものとみます。
- ・したがって、1取引である以上、借方の認識と貸方の認識は同じ観点から行うのであり、固定資産の

取得の認識が受渡日基準である以上、未払金の認識も同じ時に行う必要があります。

・また、1取引である以上、借方の測定と貸方の測定は同じ観点から行うのであり固定資産の取得原価に利息を含める場合には未払金にも含めますが、固定資産の取得原価から利息を除く場合には未払金からも除く必要があります。

■ 2取引と見る見解

・ファイナンス・リース取引のアプローチには、改訂後の基準のように「2取引」とみる見解もあります。この場合、仕訳をしますと、次のようになります。

(借)	リース資産	××	(貸)	リース債務	××
				↓	
(借)	現金	××	(貸)	借入金	××
(借)	固定資産	××	(貸)	現金	××

・つまり、ファイナンス取引（資金の調達取引）とリース取引（物件の取得取引）を分けて、一旦資金を調達し（借り入れる）、その代金を支払って固定資産を購入したと考えるのです。

・この場合、貸方のリース債務の性質は資金の調達から生ずる借入金であり、借方の固定資産の性質は通常の固定資産の取得であり、この2つの取引は、連続したものでなく、別の取引とみるのです。この発想を「2取引」といいます。

・この結果、貸方は金融取引であるのに対し、借方は事業取引から生じたものとみます。

・したがって、2取引である以上、借方の認識と貸方の認識は別の観点から行うのであり、貸方が金融

取引である以上、理論的には約定日基準で認識し、借方が事業取引である以上、理論的には受渡日基準で認識するという様に、別の時点で認識を行う必要があります。

・また、**借方の測定と貸方の測定は別の観点から行うべき**こととなります。借方の資産については、等価の原則により固定資産の取得原価には利息を含めるべきではありません。一方、貸方の負債（借入金）については、将来のキャッシュ・フローの割引価値による測定が適切と考えるならば、やはり利息は含めるべきではありません。ただし、資産と負債は別の取引から生じたものである以上、資産から利息を除くとしても、必然的に負債からも除く必要はなく、別々に測定して構わないことには留意すべきです。

■ 今年の本試験問題は2取引の問題

・このようにみると、今年の本試験問題は、2取引概念における測定を問うていることは明白でしょう。

・論文試験なので、説明の仕方にはいろいろあって構いませんが、この2取引概念が答案に表れていないと得点が低くなります。

・**ボーダーラインを超えて、科目合格を採ることはさほど難しい事ではなく、「この2取引概念がちゃんとわかってますよ！」**ということを試験委員にPRできればよいのです。後は、8行もある問題ですから、答案構成をしっかりとすればよいのです。

《過去問の重要性》

- ・この2取引概念は、**2年に一度くらい本試験にでる重要な概念**です。
- ・ざっとみるだけでも、次のようになっています。（他にもあります）

*平成19年第4問の間2

商品と交換に車両を取得した取引について、問題文では1取引+投資の継続で仕訳しているが、正

しい仕訳は2取引+投資の清算・再投資であること指摘する問題です。投資の清算（商品の売り上げ取引）

と清算・再投資（車両の取得取引）を別取引と見ることがポイントなのです。